

平成二十三年度 大学院文学研究科国文学専攻

修士論文 題目

池田三枝子ゼミ

清水典子 大伴家持自然詠研究

日野恵理子 大伴坂上郎女の「言」考

佐藤悟ゼミ

後藤ひとみ 『八笑人』における茶番
—滝亭鯉丈とその周辺—

山内博之ゼミ

近悠美 指示詞「こう」の分類について

平成二十三年度 文学部国文学科

卒業論文 題目

池田三枝子ゼミ

尾家真美 聖徳太子実在論

勝田梨江 上代の七夕伝説

小坂紫沙綺 神話中の異界論
—黄泉国を中心に—

齋藤綾香 古事記成立論
—呪術との関連を考察する—

齊藤悠 祭儀と神話
—氏族伝承の観点から—

佐々木美菜 万葉歌にみる古代信仰
—靈魂信仰を中心として—

佐藤香奈恵 大伴坂上郎女の恋愛
—男を魅了する歌—

佐藤佑果 大伴坂上郎女
—恋歌の特徴と人となり—

杉浦和佳子 歌語りからみる大津皇子像
—四一六番歌を中心に—

鈴木渚 イハノヒメ像に迫る

諏訪有香里 万葉集上野国
伊香保の歌の研究

早乙女公美 久米歌研究
常世の国研究

高橋由季 『丹後国風土記』逸文
—浦島説話を中心として—

竹下里奈 大伴家持「雪月花」歌について

寺沢貴子

山上憶良

—貧窮問答歌を中心に—

野中愛美

大伴家持の初恋

深田菜摘

大伴家持論

—越中三賦について—

牧野聡美

海幸山幸神話における末子成功譚

松本由紀

国譲り神話研究

—古事記を中心として—

森川和嘉菜

『古事記』における「口」

—「オホゲツヒメ神話」を端緒として—

影山輝國ゼミ

畔野加奈

『七夕伝説と漢詩』

遠藤一穂

『陶淵明』

—その人物と詩—

田中千裕

秋瑾の生涯

玉田菜摘

玄奘三蔵

—その出生譚—

富塚さとみ

囲碁の謎と伝説

鳴海理恵子

漢文教育の歴史

—旧制中学校を中心に—

橋本百加

孔子弟子伝

—子路・顔回・子貢—

土方裕子

阮籍

—その人物像—

福嶋佳南

明治初期の欠画について

星野友花

則天武后

牟田紗奈江

菩提達磨の人物と思想

—『二入四行論』から見るダルマの教え—

村田安希

論語義疏

—足利本・根本本 文字異同表—

山田美奈子

古代中国の神仙観

—「在る」ものから「成る」ものへ—

栗原敦ゼミ

会沢萌

『バッテリー』研究

荒川八千代

『村山由佳文学研究』

石井夏美

小川洋子研究

石井友希

夏目漱石研究

—『思い出す事など』を中心に漱石の

死生観—

岩川佳織

夏目漱石研究

白倉蘭 — 恋愛と結婚を中心に —
宮沢賢治研究

岡村陽香 — 賢治における「ファンタジー」について —
江戸川乱歩研究
— 変化する明智小五郎像 —

小佐野閑子 — 賢治童話における「死」 —
宮沢賢治研究

小野寺未央 — 『ドグラ・マグラ』に残したもの —
夢野久作研究

國府田恵 — 『ドグラ・マグラ』に残したもの —
松谷みよ子と『モモちゃんとアカネちゃん』
— 現実との距離 —

清水有希菜 江戸川乱歩論
— 『孤島の鬼』 —

滝奈緒美 — 漱石の描く鉄道 —
夏目漱石研究

堀向実奈 宮沢賢治研究
— 『セロ弾きのゴーシュ』を中心に —
『太宰治研究』

前川みづき — 「女性像」を中心に —
『太宰治研究』

松本麻衣 太宰治『人間失格』研究
— 大庭葉蔵という男 —

三保木蘭 夢野久作研究

山田友子 — 『ドグラ・マグラ』の世界 —
宮沢賢治『銀河鉄道の夜』研究

要田真帆 「銀河鉄道の夜」研究
— 自己犠牲的行為からみる生の価値 —
渡部佐和子 佐藤さとの研究

馬場慶子 — ファンタジーとしてのコロボックル物語 —
芥川龍之介「河童」論

松本由美 宮沢賢治研究
— 「銀河鉄道の夜」本当の（さいはい）
について —

河野龍也ゼミ

市川友恵 『本当は怖いアンパンマン』
— やなせたかしが生んだあやしい
ヒーロー —

遠藤早紀 夏目漱石「三四郎」論
— なぜ三四郎はモテないのか —
狂気・本能・猟奇

岡本絵美 — 乱歩が垣間見た人間の本性 —
長野まゆみ『ぼくはこうして大人になる』論

小澤江里子 — 繊細にして残酷な少年たち —

— 繊細にして残酷な少年たち —

加藤未来

芥川龍之介「地獄変」論

―芸術のために娘を焼く男―

加藤美結

太宰治「ヴィヨンの妻」論

～こんな時代だから私は変わるので～

小坂芽衣

危険人物明智小五郎

―「D坂殺人事件」、「屋根裏の散歩者」論―

高橋真悠子

『みだれ髪』論

―命がけの恋―

永田芳麻

江戸川乱歩論

―理性と狂気の狭間で―

平田友里恵

遠藤周作「深い河」論

―二つの顔を持つ女―

藤田舞子

岡本綺堂の怪談世界

松下佳保里

裏表ある言葉

―向田邦子『あ・うん』論―

宮沢ゆり

谷崎潤一郎『秘密』

―俗世と幻想のかくれんぼ―

矢崎彩子

村上春樹「海辺のカフカ」論

村上由佳

東野圭吾「片想い」

～メビウスの帯～

吉村直美

教材としての「走れメロス」

米屋朋子

Time waits for no one.

和田沙織

―「時をかける少女」研究―

飯田満寿美

―夏目漱石「こころ」における自己演出―

近藤みゆきゼミ

太宰治と外国文学「新ハムレット」

―動かない男／翳りのない女―

梅澤梨奈

『和泉式部日記』本文研究

―三条西家本と応永本をめぐって―

柴崎沙綾

中古文学における「はかなし」

―感情の表現の種々相―

杉本玲奈

王朝の恋の駆け引き

―『後撰和歌集』恋部に見る男女の和歌を題材として―

成田静香

哀傷歌論

―八代集における死の意識と表現の変遷―

佐藤悟ゼミ

金井千恵

「金幣猿島郡」の研究

小林知明

江戸時代のファッション

齊藤未奈 江戸時代における化粧文化について

新村沙紀 反魂香の研究

— けいせい浅間嶽を中心に —

西口もも子 「江戸時代の夫婦事情」

和氣理紗 『笹色猪口曆手』の研究

渡邊舞 時代を生きる人魚

棚田輝嘉ゼミ

大石福美 米澤穂信と日常の謎

— 推理小説という名の青春小説 —

岡美月 カニバリズムを取り扱う文学作品について

の考察

— 人肉食という「禁忌」がもたらすものとは —

加藤沙和 ばなな休息

— よしもとばなな作品における愛のかたち —

菊川万里奈 リアルとファンタジーの境界

— 野球漫画論 —

菊池優花 マンガやアニメで髪が示す記号性

— 髪型の歴史と変化 —

木村翔子 彼女等による愛の模様

— 現代における若い女性の恋愛観について —

ての歌詞分析 —

杉山恵美 「言葉（文字）が人にあたえる影響」

— 星新一作品のショートショートの世界から —

田中友佳子 『親と子』

— 『宮沢賢治童話における家族の形』 —

中村美貴 少女達のバイブル

— 三大少女漫画雑誌に関する嗜好的比較 —

菜原くみか 彼女の恋愛観

— 歌詞（ことば）から見えてくるもの —

西野寛乃 伊坂幸太郎の料理教室

— 神さまのレシピとは何なのか —

根本恵美 王子を待たない少女たち

— 宮崎駿監督作品における少女像 —

橋本由佳 『恋のチカラ』

— 石田衣良作品における恋愛の結論とは —

日向麻実 太宰治研究

— 弱者の存在意義について —

深澤美緒 ビルディングスロマンとして

— セカイ系分析論 —

藤田結衣 放浪息子がたどり着く場所

— 志村貴子作品に対するジェンダー論的

アプローチー

山内博之ゼミ

目羅夏希

無償の愛を求められる家族たち

―東野圭吾の家族観―

岩渕志保

則天去私という人生

―夏目漱石の死生観―

平山真弓

異界を巡って

―泉鏡花の描く幻想世界―

牧野和夫ゼミ

小林瑞穂

太平記に見る足利尊氏像

土橋綾香

『天狗草子』の研究

―近年の研究動向にそって―

中村鮎美

平家物語における平重盛の人物像

宗像あゆみ

『平家物語』における平清盛の人物像

〔言動から矛盾を探る〕

山崎優

中世からはじまる天狗の諸相

渡辺玲奈

平家物語における源義経像

―記録に見られる義経像との相違―

藤沢玲香

『はまぐり姫』という童話について

飯田優美子

「やましい」と「うしろめたい」の使い分けに関する研究

板垣智香

居酒屋のメニューに関する一考察

一島美穂

カチンとくる日本語に関する研究

―「いいんですか」「そんなに」などを

例にして―

稲葉久美子

「笑う」ことに関する表現の研究

内桶なつ美

接頭辞「気」の意味・用法に関する研究

漆田彩

日本語学習者の「か」の使用に関する研究

―終助詞を中心にして―

加藤孝子

「ノタメニ」の意味・用法に関する研究

榎有沙

「そう」と「そんなに」の使い分けに関する研究

流行歌の歌詞の通時的分析

芝崎千穂子

―恋愛に焦点を当てて―

白倉恵美

茨城県南部の方言に関する研究

鈴木香菜

接頭辞「お・ご」に関する研究

竹原英里

「タ」と「テイタ」の使い分けに関する研究

中ノ森美和

接続助詞「ケド」の意味・用法に関する研究

船橋優佳

ほめ言葉の談話文法的研究

矢崎奈佳

Jポップの形態素解析

栗田真希

『竹取物語』の宇宙観

— 浜崎あゆみと倅田來未の比較 —

— 「竹・富士山・月」を貫くものとして —

山口莉佳

「わかる」「知る」の使い分けに関する研究

篠原八重子

『源氏物語』の内なる『伊勢物語』

山崎仁美

「にぎる」と「つかむ」の使い分けに関する研究

高橋彩水

— 光源氏と昔男 —

る研究

高橋裕美

紫式部集の研究

山下瞳

「なる」の使役は「ならせる」か「させる」か

高橋裕美

— 配列をめぐって —

米田絵美

売れる流行歌と売れない流行歌の歌詞の比較

宇治拾遺物語と今昔物語集

— 外国文学と比較して —

菊地美穂

流行歌の歌詞における男女の視点に関する研究

高山世梨奈

『源氏物語』六条院考

研究

高山世梨奈

『源氏物語』六条院考

藪崎春佳

「おもむろに」「やおら」の用法

田山曜子

— 秘められた構想について —

— 「ゆつくりと」から「急に」への変化 —

田山曜子

源氏物語と音楽

中村花菜子

宮城・岩手の方言に関する一考察

西川静香

変化考

山口智奈美

源氏物語の系譜

横井 孝ゼミ

吉崎梨奈

光源氏の恋

網野友紀

葵の上と六条御息所

依田茉莉奈

— その「発端」と「結末」 —

— 愛の敗北者として —

依田茉莉奈

平安後期物語の研究

石井香織

源氏物語の連鎖の構造

依田茉莉奈

— 浜松中納言物語を中心に「源氏物語の

— 夕霧と柏木と —

久保島侑美

影響」を考える —

梅原敦子

源氏物語と入水譚

久保島侑美

源氏物語 恋と夢

小野寺桃子

谷崎潤一郎と京ことば

鎌谷 萌

光源氏 理想の女性像